

人 チーム 制度

本好き飲み会
～ビブリオバトルを楽しむ飲み会～

(株)建設技術研究所
本好き飲み会実行委員会

ノー残業デーの水曜日に、ビブリオバトルを楽しむ「本好き飲み会」を開催しています。

ビブリオバトルは、参加者が1冊ずつ本を紹介し、どの本を一番読みたいと思ったかを競う知的書評合戦です。発表の上手さを競うものではなく、あくまで「読みたいと思った本」を投票で決定するのが特徴です。

建設技研の本好き飲み会実行委員会は、ビブリオバトルを中心に据えた「本好き飲み会」を定期的に実施しています。2016年は4月、6月、8月、10月、12月に実施しました。当初は部内の集まりでしたが、草の根的に勢力を伸ばし続け、現在では複数部室に跨り、これまでにのべ60名の参加がありました。その内訳は、インターンシップの学生やアルバイトから管理職まで、幅広い役職の方々に参加いただいています。紹介された本も幅広く、小説、漫画、絵本、実用書等々、様々です。今回は、参加者へのインタビューを通して、本好き飲み会の魅力を紹介します。

どのようなことを発表しますか？

ビブリオバトルでは一人5分間で本の紹介をします。5分間話すと考えると「長い。そんなにたくさん何を話したら良いのだろう」と最初は思いました。しかし、実際に話してみると5分間はあっという間です。

それもそのはず、ビブリオバトルはあらずじ紹介で競う訳ではありません。5分という限られた時間の中で、読んでみたいと思わせるために話すべきことは何か。好きな一節、その本との出会い等々、聴いている人が興味を持ちそうなことを考えて話します。



企画の紹介

メンバー：本好きの有志
一回あたり 10～20名
(部室、役職問わず)
開催日程：隔月
開催内容：飲み会&ビブリオバトル
お酒を飲みつつ、各自がお気に入りの本を紹介しつつ、コミュニケーションを深めます

—好きな一節だけでなく、本との出会いですか。それを思い出しているうちに、発表者によっても、より一層お気に入りの本になりそうですね。

ビブリオバトルの魅力とは何でしょう？

ビブリオバトルは「読んでみたい本」を決めるバトルです。そのため、既に読んでいる人の多そうな超メジャー本を紹介する人はほとんどいません。有名な著者だけではないタイトル、普段は目に入っても気に止めないようなジャンル、あるいは全く知らない本。紹介された本の多くは私が知らないものでした(私が無知なだけではないと思います)。そのような本でも熱く語られれば心動かされ「今度本屋さんで探してみよう」あるいは「この後、貸してください」という気分させられます。やはり、新しい本に出会うことが最大の魅力であると思います。

—お気に入りの本がある人でも、誰かに紹介する機会はなかなか無いのかもしれないね。本の貸し借りから職場のコミュニケーションの活性化も期待できますね。

「本好き」「バトル」と聴くと参加の敷居が高く感じますが？

ビブリオバトルを中心としていますが、参加者の全員が発表する訳ではありません。20人集まったとしても発表するのは10人程度なので、聴くだけの参加も大歓迎です。

またこの会は「ビブリオバトルが終わったら解散」ではありません。時には、紹介した小説を原作とした映画の話、それからその映画の主題歌の話、といった風に本から飛び出して様々な方向に話が広がっていきます。

このように「本好き飲み会」は決してビブリオバトルだけを楽しむ会でも、「本の虫」の人だけが楽しめる会でもないのです。日々の生活の中で、誰もが何らかの本に触れているはずで、

そのような本を肴に、誰でも気軽に楽しめる。それが私達の本好き飲み会です。

本好き飲み会推薦

過去のチャンプ本！

- [小説] 蝉しぐれ (藤沢周平)
- [小説] サマーバケーション EP (吉川日出男)
- [漫画] 座敷女 (望月奉太郎)
- [絵本] ちいさい人魚のはなし (渡邊暁人・渡邊有紀子)

ビブリオバトル公式ルール！

1. 発表参加者が読んで面白かった本を持って集まる
2. 順番に一人5分間で本を紹介する
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたかったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする

1ゲームの発表者は4～5名で、毎回1～2ゲーム行っています。

ビブリオバトルのやり方



ビブリオバトル公式Webサイトより <http://www.bibliobattle.jp/>